

社団法人プラズマ・核融合学会
平成 21 年度事業報告書

自平成 21(2009)年 4 月 1 日至平成 22(2010)年 3 月 31 日

[1]事業の概要

1. 学術集会、講演会、講習会等の開催(定款第 5 条第 1 号)

1.第 26 回年会

日時:平成 21(2009)年 12 月 1 日(火)～4 日(金)

場所:京都市国際交流会館(京都府京都市)

講演数:一般講演 413 件(うち口頭発表 60 件、ポスター発表 353 件(ポストデッドライン論文 3 件を含む))、

特別講演 1 件、基調講演 1 件、招待講演 24 件、特別シンポジウム招待講演 2 件、特別企画基調講演 2 件、
学会賞受賞記念講演 5 件、シンポジウム 6 件、インフォーマルミーティング

参加登録者数:569 名(内訳:正会員 302 名、学生会員 206 名、非会員 9 名、学生非会員 20 名、外国人 3 名、シニア会員
8 名、招待者 21 名)

2.第 48 回プラズマ若手夏の学校

日時:平成 21(2009)年 8 月 5 日(水)～8 日(土)

場所:筑波温泉ホテル(茨城県つくば市)

参加登録者数:48 名、講師 8 名

3.第 22 回専門講習会「プラズマ・核融合分野での計算機シミュレーション技法とその応用」

日時:平成 21(2009)年 12 月 16 日(水)

場所:東京大学山上会館(東京都文京区)

参加登録者数:54 名、講師 6 名

4.第 7 回アジアプラズマ核融合学会(APFA2009)及びアジア太平洋プラズマ理論会議(APPTC2009)

日時:平成 21(2009)年 9 月 27 日(火)～30(金)

場所:アウガ(青森県青森市)

講演数:一般講演 213 件(うち口頭発表 55 件、ポスター発表 158 件)、特別講演 1 件、展示会

参加登録者数:275 名(うち外国人参加者 13 ヶ国 71 名)

2. 会誌、研究報告及び資料等の刊行(定款第 5 条第 2 号)

1.「プラズマ・核融合学会誌」

平成 21(2009)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月の期間に下記 12 冊を刊行した。

第 85 巻第 4 号～第 12 号(合計 710 ページ) 第 86 巻第 1 号～第 3 号(合計 208 ページ)

発行形態:A4 版、月刊(年間平均毎号 76 ページ) 発行部数:毎号 1,900 部

2.英文論文誌「Plasma and Fusion Research」

平成 21(2009)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月の期間に下記 12 冊を Web 上への掲載により電子出版した。

Volume 4 April～ December Volume 5, January ～ March

第 18 回国際土岐コンファレンスの論文を Special Issue として掲載した。

ICPP2008 一般論文を、JPFR Series として出版した。

3.講演予稿集及びテキスト、その他

第 22 回専門講習会テキスト 107 ページ

3. 内外の関連学術団体との連絡及び協力(定款第5条第3号)

その他/本学会が共催・後援・協賛し、当年度に開催された学術的会合

- | | |
|---|------|
| (1) 第57回質量分析総合討論会2009
2009.5.13-15 大阪国際交流センター/大阪市 | 協賛 |
| (2) 原子力総合シンポジウム2009「原子力の将来展開 -変革期の社会の中で」
2009.5.27-28 日本学術会議講堂/東京都港区 | 共催 |
| (3) 応用物理学会東海支部主催 第12回「リフレッシュ理科教室」
2009.5.29-30 浜松科学館/浜松市
2009.6.20-21 岐阜市科学館/岐阜市
2009.7.2 浦里小学校/長野県上田市
2009.8.4-5 山梨県立科学館/山梨市
2009.8.8-9 名古屋市科学館/名古屋市
2009.8.21-22 三重大学/松阪市
2009.8.23 MAPみえこどもの城/松阪市
2009.11.26 篠島小学校:出張理科教室/愛知県知多郡
2009.11.27 日間賀島小学校:出張理科教室/愛知県知多郡 | 後援 |
| (4) 日本真空協会主催 第49回真空夏季大学
2009.8.18-21 伊豆網代温泉松風苑/熱海市 | 協賛 |
| (5) 日本流体力学会年会2009
2009.9.2-4 東洋大学白山キャンパス/東京都文京区 | 協賛 |
| (6) 電気学会プラズマ研究会「液中・液界面プラズマの科学と応用」
2009.9.4-5 大阪府立大学中之島サテライト会議室/大阪市 | 協賛 |
| (7) 第14回核融合炉材料国際会議(ICFRM-14)
2009.9.6-11 札幌コンベンションセンター/札幌市 | 協賛 |
| (8) 第2回核融合エネルギー国際ビジネスフォーラム(IBF-FE09)
2009.9.7-9 札幌コンベンションセンター/札幌市 | 協賛 |
| (9) 日本放射光学会 第1回放射光基礎講習会「先端研究開発ツールとしての放射光利用術」
2009.9.7 東京大学本郷キャンパス/東京都文京区 | 後援 |
| (10) VACUUM2009-真空展
2009.9.16-18 東京ビッグサイト 東京国際展示場/東京都江東区 | 協力名義 |
| (11) 応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会「第3回プラズマエレクトロニクス インキュベーションホール~プラズマ生成から応用開発まで~」
2009.9.16-18 国立中央青少年交流の家/御殿場市 | 協賛 |
| (12) 日本機械学会 2009年度計算力学技術者(CAE技術者)認定事業
(個体力学分野の有限要素法解析技術者・熱流体力学分野の解析技術者)
2009.9.19 (各地区指定会場)
2009.9.26-27
2009.12.19 | 協賛 |
| (13) 7th International Workshop on Microwave Discharge : Fundamentals and Applications
2009.9.23-27 (株)キャリアック/浜松市 | 協賛 |
| (14) 日本熱測定学会 第45回熱測定討論会
2009.9.28-30 首都大学東京/八王子市 | 協賛 |
| (15) 応用物理学会 第20回プラズマエレクトロニクス講習会「プラズマプロセスの基礎と応用」-低圧・大気圧 協賛
実用プロセスから先進薄膜・バイオ応用まで-
2009.10.29-30 慶應義塾大学日吉キャンパス/横浜市 | 協賛 |
| (16) 日本真空協会 第50回真空に関する連合講演会
2009.11.4-6 学習院大学創立百周年記念会館/東京都豊島区 | 協賛 |
| (17) 2009年放電学会年次大会
2009.11.14 東京都市大学世田谷キャンパス/東京都世田谷区 | 協賛 |
| (18) The 4th International Symposium on Atomic Technology
2009.11.18-19 シーサイドホテル舞子ビラ神戸/神戸市 | 協賛 |

- | | |
|--|------|
| (19) IFEフォーラムシンポジウム「輝く星のエネルギーを地上へ～レーザー核融合が開く脱炭素社会～」 | 協賛 |
| 2009.11.25 全社協・濃尾ホール／東京都千代田区 | |
| (20) 炭素材料学会 第36回炭素材料学会年会 | 協賛 |
| 2009.12.1-3 仙台市戦災復興記念館／仙台市 | |
| (21) 第19回国際土岐コンファレンス、市民学術講演会 | 後援名義 |
| 2009.12.8-11 セラトピア土岐／土岐市 | |
| (22) 高速度イメージングとフォトニクスに関する総合シンポジウム2009 | 共催 |
| 2009.12.10-12 大阪大学銀杏会館／吹田市 | |
| (23) 日本金属学会 分科会シンポジウム「核融合システムにおける材料開発課題－キーテクノロジーは何か | 協賛 |
| －」 | |
| 2010.1.9 京都大学宇治キャンパス黄檗プラザ／京都市 | |
| (24) 応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会「第27回プラズマプロセッシング研究会(SPP-27)」 | 協賛 |
| 2010.2.1-3 横浜市開港記念会館／横浜市 | |
| (25) Second International Symposium on Advanced Plasma Science and its Applications for Nitrides and | 共催 |
| Nanomaterials (ISPlasma2010) | |
| 2010.3.7-10 名城大学／名古屋市 | |
| (26) The 3rd International Workshop on Far-Infrared Technologies 2010 (IW FIRT 2010) | 協賛 |
| 2010.3.15-17 福井大学遠赤外領域開発研究センター／福井市 | |

4. その他目的を達成するために必要な事業(定款第5条第4号)

1.九州・沖縄・山口支部 第13回支部大会

期日:平成21(2009)年12月22日(火)～23日(水)

会場:山口大学常盤台キャンパス(山口県宇部市)

講演数:依頼講演3件、一般講演61件(内訳:口頭発表26件、ポスター発表35件)

参加人数:81名(内訳:一般23名、学生55名、招待者3名)

授与:講演奨励賞4件

2.北海道地区研究連絡会 第13回北海道地区研究発表会

期日:平成21(2009)年12月14日(月)

会場:北海道大学工学部 量子理工学専攻会議室(北海道札幌市)

共催:日本原子力学会北海道支部

参加人数:76名

3.プラズマ・核融合学会学会賞

(1)第17回論文賞

「Gyrokinetic Studies of Ion Temperature Gradient Turbulence and Zonal Flows in Helical Systems」 洲鎌英雄他1名

(2)第14回技術進歩賞

「IFMIF 液体金属リチウムターゲット自由表面流に関する研究開発」 近藤浩夫他8名

「飽和吸収分光と単一モード半導体レーザーを組み合わせた高精度レーザー誘起蛍光ドップラー分光システムの開発」 荒巻光利他3名

(3)第14回学術奨励賞

「トカマクにおける高速粒子の瞬間的な電荷不均衡が引き起こすプラズマ回転の研究」

本多 充(日本原子力研究開発機構)

「Experimental Study of Drift Wave Turbulence on Linear Plasmas」 山田琢磨(東京大学)

(4)第8回産業技術賞 該当者なし

(5)第3回貢献賞 該当者なし

4.専門委員会活動

- (1)「高出力テラヘルツ帯光源開発と応用の連携」 斎藤輝雄主査

- (2)「核融合炉材料中の照射損傷過程のマルチスケールモデリング」 森下和功主査
- (3)「プラズマーバイオ融合科学への新展開」 畠山力三主査
- (4)「核融合炉の運転制御の基礎となるトリチウム研究・技術開発」 林 巧主査
- (5)「プラズマ科学と燃焼科学の融合」 上杉喜彦主査
- (6)「核融合中性子の利用ーハイブリッド炉の検討と評価ー」 疇地 宏主査

5.広報事業

平成 21(2009)年 10 月 3 日(土) 東北大学青葉記念会館(宮城県仙台市)において、高校生シンポジウム「21 世紀を拓くプラズマ科学」を開催。参加者 81 名。会員外の一般市民への広報活動、特に小・中学生及びその保護者への広報活動の充実を活動目標に設定し、平成 21(2009)年 8 月 8 日(土)に日本大学での「夏休み自由研究教室」に参加(参加者約 300 名余)し、平成 22(2010)年 1 月 11 日(月)に名古屋大学での「第 2 回おもしろ科学教室」を実施(参加者 200 名以上)した。

[2]会務の概要

1. 総会、役員会、委員会に関する事項

1.社団法人プラズマ・核融合学会第 21 回通常総会

第 21 回通常総会を、平成 21(2009)年 6 月 5 日(金)に愛知県勤労会館において開催し、下記案件についていずれも原案通り可決した。

- 第 1 号議案:平成 20 年度事業報告書、平成 20 年度財務諸表他 承認の件
- 第 2 号議案:平成 21 年度事業計画書、及び収支予算書 承認の件
- 第 3 号議案:平成 21 年度新役員 承認の件

2.評議員会

第 21 回通常総会に先立って評議員会を開き、同通常総会に提案する議案について諮問した。

3.理事会

理事会を次のように開催した。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 第 136 回 平成 21(2009)年 5 月 20 日 | 第 137 回 平成 21(2009)年 6 月 5 日 |
| 第 138 回 平成 21(2009)年 6 月 5 日 | 第 139 回 平成 21(2009)年 9 月 4 日 |
| 第 140 回 平成 21(2009)年 11 月 30 日 | 第 141 回 平成 22(2010)年 01 月 15 日 |
| 第 142 回 平成 22(2010)年 3 月 10 日 | |

4.総務委員会

総務委員会を次のように開催した。

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 第 67 回 平成 21(2009)年 4 月 22 日 | 第 68 回 平成 21(2009)年 8 月 12 日 |
| 第 69 回 平成 21(2009)年 11 月 5 日 | 第 70 回 平成 21(2009)年 12 月 25 日 |
| 第 71 回 平成 22(2010)年 2 月 24 日 | |

5.編集委員会

編集委員会を次のように開催した。

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 第 301 回 平成 21(2009)年 4 月 10 日 | 発行小委員会 |
| 第 302 回 平成 21(2009)年 5 月 8 日 | 発行小委員会 |
| 第 303 回 平成 21(2009)年 6 月 3 日 | 発行小委員会 |
| 第 304 回 平成 21(2009)年 7 月 10 日 | 企画・発行合同委員会／新旧合同 |
| 第 305 回 平成 21(2009)年 8 月 5 日 | 企画・発行合同委員会 |
| 第 306 回 平成 21(2009)年 8 月 31 日 | 発行小委員会 |
| 第 307 回 平成 21(2009)年 10 月 6 日 | 発行小委員会 |
| 第 308 回 平成 21(2009)年 11 月 6 日 | 発行小委員会 |
| 第 309 回 平成 21(2009)年 11 月 30 日 | 発行小委員会 |
| 第 310 回 平成 22(2010)年 1 月 8 日 | 発行・企画合同委員会 |
| 第 311 回 平成 22(2010)年 2 月 1 日 | 発行小委員会 |
| 第 312 回 平成 22(2010)年 3 月 1 日 | 発行小委員会 |

6.プログラム委員会

プログラム委員会を次のように開催した。

第1回	平成21(2009)年 5月27日	第2回	平成21(2009)年 7月16日
第3回	平成21(2009)年 8月17日	第4回	平成21(2009)年12月22日
第5回	平成22(2010)年 2月22日		

7.広報委員会

広報委員会を次のように開催した。

第1回	平成21(2009)年 4月28日	第2回	平成21(2009)年 6月11日
第3回	平成21(2009)年11月25日		

8.九州・沖縄・山口支部役員会

九州・沖縄・山口支部役員会(幹事会)を次のように開催した。

第1回	平成21(2009)年 6月11日	第2回	平成21(2009)年12月22日
第3回	平成22(2010)年 3月:mail会議		

9.プラズマ・核融合学会学会賞選考委員会

学会賞選考委員会を次のように開催した。

第1回	平成21(2009)年 7月13日
-----	-------------------

10.その他の会合

以上のほか、PFR エディトリアルボード会議、年会実行委員会、APFA 委員会、プラズマ関連学協会運営委員会、第8回核融合エネルギー連合講演会準備各委員会、プラズママップ作成委員会他を適宜開催した。

2. 当期の会務内容

1.総務関係

総務委員会では、各委員会の状況把握と活動に対する支援、事務局運営に関わる問題点の把握と改善を実施している。委員会支援では、特に、当学会が主担当となる平成22年度の核融合エネルギー連合講演会の開催に向けて様々な準備を進めた。公益法人改革での一般社団法人への移行手続きでは、学会としての方針を学会誌で会員へ周知し、定款の改定作業を順次進めている。学会のWEBページの改善として、日本語ページ(トップページ)の改訂と英文論文誌(PFR)の知名度を上げるため英語ページの見直しと充実を行った。また、学会関連の委員会活動等の効率化を図るためのテレビ(WEB)会議システムの検討を実施し、導入する方向で進めている。

2.財務関係

平成21年度は、平成20年度決算時に明らかとなった会員数と賛助会員口数の大幅な減少、及び学会誌掲載料収入の伸び悩みを勘案して、平成20年度より減収予算とした。支出については、減収予算に連動して講演会経費、会誌発行費等の支出を抑えつつ、後継者育成の観点から若手夏の学校経費を大幅増としたため、全体として約185万円の赤字の収支とした。収入では、会費・入会金収入が、目標予算を約78万円の減収と、平成20年度決算時より更に会員数そのものが減っている。事業収入では、若手夏の学校収入が約50万円、専門講習会収入が17万円、会誌掲載料・別刷料が約130万円の減収となり、収入全体として予算策定時に比べ約250万円の減収になった。支出面では、目標予算に対して会誌発行費が約69万円、受託事業費が約32万円、旅費交通費が約108万円、広報事業費が約46万円とそれぞれオーバーしたが、英文論文誌発行費の約180万円削減を筆頭に、事業費、管理費で予算策定時より約150万円削減した。最終的に平成21年度は、赤字予算約185万円に対し、約119万円悪化し、約304万円の赤字となった。

3.編集関係

英文論文誌(PFR)は創設後4年を経過し、通常投稿の掲載論文62編(ICPP2008の招待講演論文23編を含む)に加え、Special Issueとして第18回国際土岐コンファレンスの論文50編を掲載した。また、ICPP2008一般論文をJPFR Seriesとして出版した。さらには、APFA/APPTC及びICMPAPAETの論文についてJPFR Seriesで出版することを決定し、作業を実施している。あわせて、第19回国際土岐コンファレンスの論文のうち投稿論文をPFRのSpecial Issueとして出版することを決定した。また、Webによる論文査読システムの本格運用を開始するとともに、PFRのステータスを上げるために、Editorial policy

の作成公開、Review Article 企画、外国人エディターの増強、SCOPUS への追加タイトル申請等を進めた。PFR については、電子化により発行コストを大幅に抑えることができていたが、その反面、和文誌への原著論文の投稿が少なくなり、収支状況が悪化している。そこで、和文誌に関しては、解説、小特集、講座等の企画記事に加えて、プロジェクトレビュー等を中心に新たな企画を行うとともに投稿勧誘を行い、すでに3件を掲載した。さらに、特別寄稿、サロン、研究技術ノート等を掲載し内容の充実と収支の改善を図った。

4.企画関係

学会年会については、平成 24 及び 25 年度の開催地について検討し、平成 24 年度は九州地区で平成 25 年度は関東地区で開催することにした。専門講習会は東京で「プラズマ・核融合分野での計算機シミュレーション技法とその応用」という題目で実施した。若手夏の学校は筑波大学が中心となって進め、定例事業として実施した。企画第一小委員会では、研究活動の新展開及び活性化のため、専門委員会形式による活動の公募を前年度までに行い、年度当初から活動が開始できるようにした。企画第二小委員会では、高校生シンポジウムを仙台で公開講演会として開催し、高校との連携教育を全国展開に向けて拡大推進した。

5.プログラム関係

プログラム委員会の主な活動は(1)年会のプログラム計画、及び(2)海外の提携学会(アメリカ物理学会プラズマ部門:APS-DPP・ヨーロッパ物理学会プラズマ部門 EPS-DPP)への招待講演者の推薦の2点である。(1)に関しては、平成21年度は、第26回年会が2009年12月1日より4日間、京都国際交流会館で開催された。この会議は、第25回年会で行った、年会のあり方に関するアンケート調査の結果をもとに、新しい企画を取り入れるとともに、年会プログラムをこれまでとは異なる方法でアレンジした。また今年会から、プログラム委員会と現地実行委員会の連携を強め、いままでは現地実行委員に一任していたプログラム作りを共同で行う等、プログラム委員会が年会の企画・運営に例年以上に深く関与した。今年会後に行った会員に対するアンケート調査によれば、今年会で取り入れた新たな試みは、参加者からも概ね好評であった。また、(2)については、例年通り、日本を代表する優れた研究者をAPSやEPSの招待講演候補者として推薦し、日本のこの分野の最先端研究の情報を世界に発信することに貢献した。

6.出版関係

出版小委員会で編集を担当している核融合50周年記念事業「プラズマ原子分子過程ハンドブック」の原稿がほぼ出そろい、大半の原稿が最終版となっている。大阪大学出版会に原稿を提出し、6月初旬までに出版契約を完了する予定である。一方、新企画として「プラズマシミュレーションの基礎と応用(仮題)」の出版を検討している。今後、基礎編及び応用編における各章の内容を確定し、例題ソフトの作成を含めて、執筆者を選定する作業に入る予定である。京都大学出版会等との出版可能性の検討も併せて進めている。

7.広告関係

広告拡大策として、会員自身が研究やビジネスを通して周知の企業・人脈に直接、積極交渉する、学生会員向けに求人広告、夏休みのインターンシップ募集広告を積極的に募集する、編集委員会が企画する核融合開発やプラズマ応用に関する特集記事に呼応した広告を勧誘する、等からなる「広告掲載に関する改善案」を取りまとめ、これに沿った努力を進めた。しかし、100年に一度と言われる大不況の中、広告件数の獲得拡大には依然、厳しいものがある。今年度の広告掲載件数は延べ40件、延べ掲載頁数は34.5頁、広告料総収入は代理店の取り分を除いて約189万円であった。

8.広報関係

今期重点目標である「児童・生徒及びその保護者に向けての広報活動の充実」を継続実施。その一環として、昨年度初めて実施した小・中学生向け啓発イベントを活発化し、今年度は年2回実施した。具体的には、1)「夏休み自由研究教室」(2009年8月8日、於:日大理工学部)、2)第2回「おもしろ科学教室」(2010年1月11日、於:名古屋大学)を実施し、広報委員、若手学会員、事務局員がプラズマおよび核融合に関するデモ実験、展示、ビデオ上映等を活発に行なった。同時に、「プラズマって何?」等の児童向けパンフレットを、A4リーフレット形式のシリーズものとして、No.1からNo.6まで作成・配布した。さらに、今年度新たに当学会HPに広報委員会活動欄を設け、上記イベント情報や児童向けパンフレット等をアップロードした。

9.九州・沖縄・山口支部関係

平成21年度は計3回の支部役員会(1回はメール会議)、支部大会(内藤実行委員長)、市民講座1回、特別講演会4件、プラズマ技術研究会共催3件の活動を行った。また、支部のパンフレットを更新した。このうち、支部最大のイベントである支部大会(於山口大学工学部)では、講演申し込みが61件あり、うち口頭発表26件、ポスター35件の講演発表を実施した。また、依頼講演3件(本島修先生、間瀬淳先生、嶋田道也先生)を行い、予稿集(2ページ/件)を参加者に配布した。参加者は総数81名(うち招待講演3名、教職員23名、学生55名)で、終了後に開催した講演奨励賞選定委員会で、対象となるほぼ全ての講演発表から4件の講演奨励賞を選定した。なお今回から、審査を招待講演者を含む助教以上の参加教員全員で行った。市民講座は、九州大学総合理工学部の公開講座(6/12)と共催で開催、飯吉厚夫先生の講演会を開催するとともに、ポスターと予稿集を作成した。特別講演会は、九大、崇城大で以下の計4名の先生方に講演していただいた。: 1) 野々村修一教授(岐阜大学 未来型太陽光発電システム研究センター長)講演題目:「プラズマ, ホットワイヤーCVD法を用いた微 結晶 SiC の成長および岐阜大学未来型太陽光発電研究センターの紹介」 2) Dr. K. P. Shamrai (Institute for Nuclear Research, National Academy of Sciences of Ukraine, Ukraine)講演題目: HELICON PLASMAS: Basic physics and some application aspects 3) Prof. Jae Koo LEE (Pohang University of Science and Technology, Korea) 講演題目: Bio-Medical Plasma Devices 4) Associate Prof. Tao Lan (CAS Key Laboratory of Basic Plasma Physics, and Department of Modern Physics, University of Science and Technology of China) 講演題目: Spectral Characteristics of Zonal Flows in the HL-2A tokamak また、平成21年度から始めたプラズマ技術研究会(九州半導体イノベーション協議会と共催)を3回(佐世保、熊本、福岡)開催し、プラズマ関連企業との交流を深めた。

3. 許可、認可及び承認に関する事項

第21回通常総会後、役員の登記(法務局)を行い、社団法人として必要な事業計画、予算、及び決算を文部科学省に提出した。

4. 補助金に関する事項

当年度は、文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(C)」370万円の補助金が交付された。

5. 契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約事項	期間
2009年7月16日	昭洋商事 東濃支社	店舗総合保険	2010年7月16日

[3]会員の異動状況

個人会員(正会員、学生会員)の増加に努力したが、結果、正会員は8名の減少、学生会員は7名の減少となった。平成19年度からの会費未納者14名を「学会費滞納会員等の取扱いに関する規定」により平成21(2009)年12月1日付にて退会処理した。一方、賛助会員は退会3社、減口があり、法人は3社の減少(9口減口)、特別会員は入退会があり、2団体の減少(3部減少)となった。平成22年3月31日現在、個人会員1,622名、賛助会員55法人(312口)、特別会員35団体(49部)となった。

平成21(2009)年4月～平成22(2010)年3月

会員種別	会 員 数		増減数	備 考	
	当年度末 平成22年3月31日 現在	前年度末 平成21年3月31日 現在			
正会員	1,328 名	1,336 名	-8 名	入会 14 学→正 21 正→学 0	退会 44 復会 1

学生会員	294 名	301 名	-7 名	入会 学→正 正→学	135 21 0	退会 復会	121 0
賛助会員	55 法人 312 口数	58 法人 331 口数	-3 法人 -19 口	入会 退会 増口	0 3 0	口数 口数 減口	0 9 10
特別会員	35 団体 49 部	37 団体 52 部	-2 団体 -3 部	入会 退会	1 3	増部 減部 減部	1 3 1
計	1,622 名 55 法人 35 団体	1,637 名 58 法人 37 団体					

[4]平成21年度 寄付芳名録

なし